

## (1) 活動の背景

### 1. 対象地域のまちづくりの概要

この地域では、1980年代前半から一寺言問を防災のまちにする会(一言会)や京島地区まちづくり協議会を中心として、各町会が防災まちづくりに取り組んでおり、90年代に入り、まちづくりオ団川の手倶楽部による「まちづくり構想」や、さまざまなまちづくりの活発な議論や提言などが行われた。

世界有数の過密市街地として知られた京島地区では、1970年代半ばに大規模な再開発計画が検討されたが、事業成立性が低いことから実施を見送り、欧米の潮流を参考に、東京都は改善型のまちづくりに切り替えた。1981年には全国に先駆けて、京島地区まちづくり協議会を組織し、住民の参加を得て「まちづくり計画(大枠)」をまとめた。都と区は、その計画に基づき、用地買収とそれに伴う従前居住者用住宅(コミュニティ住宅)を建設しながら、道路の拡幅整備と老朽住宅の建て替えを進めた。

これと前後して、一寺言問地区(東向島1丁目等)において東京都の防災生活圈モデル事業がスタートし、地域の総力で災害を防ぐという基本認識から、一寺言問を防災のまちにする会(一言会)を主体とした取り組みが進められた。その成果のひとつが、路地尊(雨水利用の防火水槽)を中心としたエコロジカルな小広場のネットワークである。

1990年代に入り、京島地区の密集事業は、墨田区に事業移管され、バブル経済も追い風となり、次々と事業用地の買収、民間の共同建て替えが進んだ。

市街地の防災性は、以前から比べると、確実に向上しつつある。しかし、問題は依然として解消されておらず、従来の方法では前に進めない厳しい現実に直面している。

## (2)活動の経緯と目的

### 1. 設立までの経緯

向島地域ではこれまで、先述の防災まちづくりに加え、有志のまちづくり組織である、川の手倶楽部等が専門家や学生等の受け皿となり、様々な提案やイベントの開催を行ってきた。また、これらの組織が仲介役となってオッテンゼンや神戸等のまちづくり NPO との交流を進めてきた。

これらの活動の積み重ねの成果が、2000 年の「向島博覧会」の開催である。この博覧会でのアートイベントでは、「クリエイター会議」が組織され、地域外の多数のアーティストが参加した。これは翌年の向島博覧会 2001「アートルロジイ」の中核となる向島アーティストネットワークに発展しており、博覧会におけるアート展や社会実験等は、空き地や空き家等の遊休資源の問題や価値、可能性に光を当て、その活用を考える好機となった。また、防災や防犯、高齢化や子育て、アートやビジネス等の様々なテーマについて、地域住民と行政、専門家が垣根を超えて、それぞれができること、相互に協力してできることを検討し、自助と共助による総合的な地域再生の道筋を探る契機となった。これらの目に見える具体的な成果は、若いアーティストたちが博覧会で活用した古い空き家などに続々と移り住んできたことである。また、地元のまちづくり協議会・一言会が、防災の観点から空き家の総点検を実施し、老朽化した空き家を除去したことも特筆される。

また、向島地域において蓄積されている学術研究の成果を地域に還元する仕組みの必要性については、向島博覧会等のシンポジウムにおいて何度も指摘されており、多くの大学の研究室が地域に入り込み、同じような調査が繰り返され、しかも地元への成果報告がないことに対する不満も高まっていた。また、全国各地及び海外からも視察が相次ぎ、それに対する効率的で効果的なガイドシステムの検討が求められていた。

さらには、これまでボランティアで行われてきた活動をコミュニティ・ビジネスとして展開できるような下地と仕組みをつくっていく必要性も問われていた。また、墨田区及びその周辺区には、工場等立地規制法の関係から、大学がひとつもなく、学術・芸術等の知と技を集積し、人材を育成する場と機会の必要性が唱えられてきた。

これらを背景として、向島の各種まちづくり NPO 等に係わる有志が集まり、向島の地域再生のプラットフォームとして新たな事業の育成・促進を図るために向島学会が設立された。向島学会の設立は、向島博覧会の成果を発展させることを狙いとして計画され、「向島博覧会 2001」の最終日(平成 13 年 11 月 25 日)に発表した。以後博覧会の実行委員を中心に、設立準備会を発足させ、活動目的、活動内容を議論したのちの平成 14 年 4 月に正式に発足した。

## 設立の趣旨(向島学会・設立総会 議案書より)

・「向島」では、これまで様々な分野において、たくさんの分析や位置づけ、調査研究、活動がなされ、さらには文化的な作品も数多く発表・蓄積されてきました。

・私たち「向島学会」では、これらの学術・芸術等の成果を集約し、このまちで生活する人たちに還元するとともに、私たちのまち「向島」のあり方について自ら考える資源にしていきたいと思いをします。

・また、これから「向島」で研究活動や創造的活動をしようとする人たちに、資源を提供・発信し、さらに充実した成果となるように協力していきたいと思いをします。

・近い将来には、NPO 法人にするとともに、「大学」の設立も視野に入れていきたいと考えています。

## 対象地域

向島学会では、「向島」(向島地域の対象)を隅田川・荒川・中川・綾瀬川・北十間川に囲まれた地域(東京都墨田区北部)としている。

## 2. 活動の目的

向島地域に関する学術・芸術等の成果を集約し、それらを地域に還元するとともに、今後の向島地域のあり方を検討し、広く情報発信・行動提案していくことを目的とする。

### (3) 活動の内容

現在以下の6つのテーマで活動を行っている。

- ・長屋改修によるちいさな交流拠点づくり(フルハウス/RICE + プロジェクト)
- ・空き校舎の活用についての提言/提案
- ・アーティスト・イン・レジデンスの展開方法
- ・グループマンションの実現
- ・コミュニティビジネスのモデルづくり
- ・タウンツーリズム/ツアー

活動形態の特徴として、フォーラム形式によるプレゼンテーションと議論の組み合わせにより、各テーマについて議論することが挙げられる。

#### フォーラムの開催

向島地域におけるまちづくりの各課題について意見を交換する場として「交流のサロン」を2ヶ月に1回程度のペースで開催している。「交流のサロン」では、会員の研究発表や各研究部会の公開研究会等を行っている。平成14年12月までに5回のフォーラムを開催し、活発な議論を行っている。

第1回(6月22日開催) 震災を経て向島はどのように変わったか

第2回(7月14日開催) 民間ストックを活用した向島内外の交流拠点の確保

第3回(8月31日開催) 向島夏期大学(研究発表会)

第4回(10月27日開催) 向島における狭小住宅のあり方

第5回(12月22日開催) 向島の戦災・戦後の検証

#### 向島学会・夏期大学(研究発表会)の開催

平成14年の夏、向島学会が主催し、向島をさまざまな角度から研究している各大学が、夏休みを利用して集まり、情報交換と交流を行うことをねらいとして「夏期大学」が開催された。

一寺言問集会所には、各大学の学生グループが調査・交流を行う「まちかど研究室」が開設された。また、大阪外語大学の学生5名がそれぞれ2週間、向島に「留学」をして、向島における地域に根ざした暮らし方を体験学習し、レポートにまとめた。彼らが期間中滞在した民家のひとつは、向島博覧会2001においてアーティストが改修した家屋であり、滞在型の交流拠点としての役割を担った。これらの研究成果は8月31日の交流サロンにおいて発表された。

#### 密集市街地再生シンポジウムの開催

平成 15 年 2 月 22 日に NPO 日本都市計画家協会との共催で、墨田生涯学習センターにおいて、以下の 4 つのテーマについて議論する 200 人規模のシンポジウムを開催した。

「高齢者から子どもまで安心して元気に暮らせる木造密集市街地のあり方」

「木造密集市街地の地域資源を活用した創発的なまちづくりのあり方」

「木造密集市街地における産業振興と雇用創出の進め方」

「木造密集市街地の都市再生を進める社会的プログラムのあり方」

#### アートイベントの開催

平成 14 年 11 月と平成 15 年 3 月に、地域の空き家・空き店舗などを活用したネットワークイベントが開催され、広報など側面的な支援を行った。

#### ホームページの開設 (<http://www.mukojima.net/>)

平成 14 年 1 月 30 日開設。12 月現在アクセス数 4000 件を超える。

内容は、向島学会の案内 / 向島の地理と歴史 / 向島の論文リスト(約 70) / 読み物「内から見た向島」「一言会の防災まちづくり」「交流サロン報告」など

#### メーリングリストの開設と意見交換 (<http://www.egroups.co.jp/group/mukojima>)

メーリングリストでは、会員による、毎月 100 件を超える意見交換・情報交換が行われている。

### (4) 活動成果

密集住宅市街地の整備及び地域再生に関するさまざまなテーマについての議論が、地域住民と内外の専門家、NPO、行政など立場を越えて展開されていること、これらの活動により裾野の広いネットワークが着実に形成されつつあることがこれまでの成果である。また、若い世代を中心に、こうしたイベントや交流会を契機に、向島地域に移り住みはじめていることも大きな成果である。

## (5) 今後の展開

アート部会の活動は平成 15 年 2 月には空き店舗改修型交流拠点プロジェクト「RICE+」がスタートし、スタートアップイベントとして、3 月 7 日から 16 日まで「吾孀・寺島長屋博覧」を開催し、空き家調査・改修実態や改修案の展示、映像によるプレゼンテーション、地域の長屋を巡るツアー、カフェを行った。4 月からは実際の改修工事に入る予定である。

住環境整備研究部会においては、昨年夏に行った居住実態調査のとりまとめを行い、専門家集団 SONOTA と墨田区が中心になって進めている向島グループマンションプロジェクトの居住ニーズの把握や、地域の住環境整備プログラムの提案につなげたいと考えている。また、小学校の空き校舎活用への提案を行っていく予定である。

## (6) 活動のポイント

### (活動の人材)

会員の活動が中心であるが、フォーラムやシンポジウムの開催により、新規会員やネットワークの広がりにつながっている。会員には建築・都市計画分野の専門家が多く、豊富な専門的情報の提供が行われている。アート分野はパーソナルなネットワークによる広がりを見せている。情報発信や人集めはホームページや各種メーリングリストに負うところが大きい。

### (活動のための資金調達)

フォーラムの開催は会員の会費によりまかなわれている。また関連するイベントや研究会に関する資金は自己調達が基本となっており、住環境整備研究部会では住宅総合研究財団の研究助成を受けている。アートに関するイベントは企業とのタイアップなどを行っているが、資金は潤沢ではなく、自己資金に頼っている部分が多い。持続的な資金調達の方法には常に悩まされている。

### (活動のネットワーク・支援)

向島地域の活動については、これまでの密集市街地整備の取り組みの経験から、一言会や京島まちづくり協議会、各町会など、居住者組織と関連する行政・専門家に支えられる部分が多い。アート分野に関してはキュレーターやコーディネーターの個人的なネットワークに頼っている部分が多いが、地域内のアートギャラリーがネットワークの拠点として機能しつつある。